

2010年5月23日

農林水産大臣 赤松 広隆 様

食のコミュニケーション円卓会議  
代表 市川まりこ

### 放射線照射ジャガイモの「安全性の懸念」の有無についての質問書

私たちは、食の問題についてより良いコミュニケーションを育みたい！との思いから、主婦、事業者、研究者、教育者、マスメディアや行政関係者など様々な立場のメンバーが、互いに学びあうという精神で集まって、学習会や見学会などの活動を行っている市民団体「食のコミュニケーション円卓会議」<<http://food-entaku.org/index.htm>>です。

これまでに「食品照射」や「食品廃棄」「遺伝子組換え作物」等をテーマに取り上げて勉強してきました。先日も、日本で唯一、食品照射を行っている、JA 士幌町のじゃがいも芽止め照射施設を見学してきました。そこでは、品質の良い北海道産のジャガイモを端境期にも美味しいままで消費者に届けたいと、誇りをもって「芽どめじゃが」を出荷されている現場をしっかりと見てきました。今まで何回か「芽どめじゃが」を実際に食べて、美味しい・便利と感じ、自分の家の近くの店でも買えることを願っています。

ところが、先般、「食品照射ネットワーク（代表：里見宏氏）」および「照射食品反対連絡会」という団体から、いくつかのスーパーなどに、安全性に懸念のある放射線照射ジャガイモの販売中止の要請が出され、その申し入れに従って実際に放射線照射ジャガイモの販売中止が決定されことを知りました。

（食品照射ネットワーク HP：[http://www.sih.jp/menu\\_s.htm](http://www.sih.jp/menu_s.htm)）

私たちは、その放射線照射ジャガイモは、昭和47年に厚生省が食品衛生法を改正して許可し、昭和48年に農林省による「農産物放射線照射利用実験事業」として北海道士幌町に実用化照射プラントが建設されてから毎年春の端境期に市場流通し、現在は JAS 法に則った表示とともに販売されているものと認識しています。食品安全委員会も、放射線照射食品を同委員会の自ら評価案件にするかどうかの議論において、照射バレイショの健康影響は認められず評価は必要ないと判断したと承知しています。したがって、里見宏氏らによる「販売中止の要請」は、照射食品の安全性について国内外で科学的に討議されている内容を歪めて伝えるとともに、現在、合法的に流通している照射ジャガイモがあたかも安全性に問題があるかのように言い立てることにより、消費者の不安を煽り、意図的に流通業界に圧力をかけるなど、不適切なものであると判断しました。

放射線照射ジャガイモの「安全性の懸念」の有無について私たちの認識は正しいのでしょうか。以下に、私たちの質問を記載いたしましたので、ご検討の上、ご回答いただけますようお願い申し上げます。

#### 質問 1

放射線照射ジャガイモ、すなわち、北海道 JA 士幌町産の「芽どめじゃが」は、端境期になっても芽が出ない安全な食品であるとの認識は正しいですか？

#### 質問 2

もし、「食品照射ネットワーク」が主張するように安全性に問題があるならば、直ちに市場流通を禁止すべきではないでしょうか？ この点について、お考えをお聞かせ下さい。

#### 質問 3

「食品照射ネットワーク」のような団体から、放射線照射ジャガイモについて、あたかも安全性に問題があるかのように言い立てて販売中止を迫られた場合、その言い分の真偽を公的機関の情報で確認しようとしても、農林水産省のホームページの中には簡単なファクトシートすら見当たりません。誰でも容易にアクセスできる場所に、公正中立な立場で、科学的な事実と、現時点での国の見解を示すべきではないでしょうか？ この点について、お考えをお聞かせ下さい。

#### 【意見】

「食品照射ネットワーク」のような団体からの「放射線照射ジャガイモの販売中止の要請」は、私たちの認識が正しければ、国が許可し安全性に問題が無いと判断している芽止めジャガイモについて、無用の不安を消費者に強いるものです。この論では、科学を理解しない、あるいは、意図的に無視することにより不安を感じる一部の消費者団体のために、本当は安全なものを販売中止にすることに繋がりがかねません。つまり、「少しでも不安なら排除」という考え方では、じゃがいもにも、玉ねぎにも、日常食べている他のものにも、何かしらごく微量の危険な物質が入っているので、一部の団体が「置かないで」と言った場合、次々排除されていくのでしょうか？ それでは、消費者全体が困ります。

科学的事実と乖離した過大な不安を抱くことにより、美味しく便利な北海道士幌町産の「芽止めじゃが」が手に入らなくなることで、不利益を被るのは他ならぬ消費者です。

貴省におかれましては、一部の消費者が持つ不安や誤解が、科学的な事実に基づき実際の安全性と乖離している場合においては、その乖離を埋める情報を消費者に丁寧に示していただくと共に、多様な消費者ニーズに応えながら食料の安定供給と自給率向上、食品ロスの削減にも貢献する、農業振興の施策を打ち出していきたいと願っております。

## 回答先

食のコミュニケーション円卓会議 代表 市川まりこ  
連絡先は別紙をご覧ください。

私たちは照射食品や遺伝子組換え食品などを勉強するだけでなく、必要に応じて積極的に意見を述べていきたいと考えております。発信した情報を共有するため、本質問状を提出したこととその内容を当会のホームページに掲載いたします。そして多くの問題に対して双方向のコミュニケーションを取りながら問題や疑問を解決していきたいと考えております。

貴省からのご回答につきましても、その有無も含めて同様に公開させていただきたいと存じますので、予めご了承お願い申し上げます。

ご多忙とは存じますが、ご検討の上、お返事いただけますようよろしくお願い申し上げます。ご回答につきましては6月7日までに文書でお願いいたします。

以上